

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

無料

第54号

毎月発行

発行 2016年(平成28年)11月16日 水曜日

2016年(平成28年)11月16日 水曜日

野球とソフトボールの福島開催濃厚 政治的駆けひきのみで決まる2020 オリンピック東北開催だが、せつがくの チャンスを東北復興に活かそう

福島での野球・ソフト ボール競技開催濃厚

前号で、2020東京オリンピックの東北での一部開催の可能性ある競技はポ
ートだけではないという記
事を掲載した。その後、野
球・ソフトボール競技も東
北開催の具体的な可能性が
出てまいりました。
そして先日さらに一歩進
んで、オリンピック組織委
員会の森会長が、あたかも
小池東京都知事の長沼ポー
ト場案に対抗するかのよう
に、野球・ソフトボールの



福島開催を提案して、ニュ
ースとなりました。

これで本決まりというわ
けではありませんが、今後、
福島県内のいくつかの競
技会場候補が絞り込まれ、
来月上旬に開かれるIOC
国際オリンピック委員会
の理事会で正式に承認され
るとい段階になり、現
段階ではかなり有力な提
案となりそうです。

ここに至るまでの経過と
して、先月、IOCのバッ
ハ会長が、安倍総理との会
談で、東日本大震災の被災
地で競技を開催する意向を

示しました。

これを受け、九日に都内
で開かれた組織委員会の理
事会で、野球・ソフトボー
ルの一部の試合を福島県で
行うことが承認されるとい
うことになった訳です。

具体的な競技会場につい
ては、福島市の福島県営あ
づま球場、いわき市のいわ
きグリーンスタジアム、郡
山市の開成山野球場が候補
に挙がっていますが、関係
者によると、交通の利便性
や観客席の規模などから、
福島市のあづま球場で調整
が進められているというこ

とです。

これら一連の動きはまる
で政治的な茶番劇です。こ
れまでも少しもそんなこと
に触れもしなかった組織委員
会なのに、子供のけんかの
ように小池知事のイニシア
ティブに對抗しての提案と
しか思えないからです。

それはともかく、福島で
オリンピック競技を開催す
ることに異論はありません
むしろ積極的に賛成です。

福島の放射能問題解 決は不可避

ただし、福島開催は国際

的にも大きな注目を浴びる
のは間違いありません。
放射能汚染問題にきちん
とした解決策を示さなけれ
ば、国際的にも大きな問題
を引き起こすことになるか
らです。
そうしたことまでしん酌
した上で組織委員会が福島
開催を推したかどうかはな
はだ疑問ですが、決定した
ら、それは何としても解決
しなければならぬ課題と
なることは引き受けざるを
得ません。
きっと世界のジャーナリ
ストたちが集まり、福島
の放射能問題をあぶりだして
いくことでしょう。

海水のボート場は レガシーか？

東京オリンピック競技の
東北開催で、前号も取り上
げたボート競技の話題に転
じます。

開催場所の候補のひとつ
である有力のボート場は
海を区切って作られるとい
います。つまり、海水のポ
ート場であり、海面の変動
に左右される側面があると
いうことです。
なぜこうした立地なのか、
素人の筆者は理解に苦しむ
ばかりです。

しかも海水に浸かったポ
ートをいちいち洗わないと
いけない、オリンピック後
も、そうした不便を踏まえ
て、この競技場がレガシー
(遺産)として活用される
のかどうかははなはだ疑問
と思うのは素人だからでし
ょうか。

まざまま影響が出ますが、
こうしたオリンピック開催
を契機として社会に生み出
される持続的な効果がオリ
ンピック・レガシーという
ことです。
ですから、単に競技場を
後々活用するという狭い意
味だけではありません。

派員を招待するイベントを
企画するのも有効ではない
かと思えます。
リオの効果を東北でも
オリンピックが東京で開
催されれば、多くの国内外
観光客も集まります。
そのことは、今年のリオ
デジャネイロでも証明済み
です。(表参照)
また、特に海外からの観
光客は、東京に来たらそれ
で終わりということはない
でしょう。必ず、他の地域
も観光します。
そのときに、東北にもた
くさんの観光客を呼び込む
のは容易です。
目の肥えた海外観光客に、
東北の魅力が堪能してもら
う企画が切に望まれます。

2016 リオデジャネイロオリンピックにおける リオデジャネイロ市の主な効果 (リオデジャネイロ市長談 2016.8.24)

項目	効果	内訳
観光客	観光客総数 117万人	海外観光客内訳 米国 17% アルゼンチン 12% ドイツ 7% など
	うち外国人 41万人	
経済効果	外国人旅行者が1日で使用 した金額 約425レアル (日本円で約13000円)	オリンピック開催日は8/5か ら8/21までの17日間 パラリンピックは9/7から 9/18までの12日間 筆者による総額概算 数千億円
	国内旅行者が1日で使用 した金額 約310レアル (日本円で約9500円)	

リオデジャネイロ市のオリンピック観光客効果

来年満六年を迎える3・11 7年目以降の東北被災地の 復興ビジョンは結局のところ ウヤムヤになってしまうのか

やはり、人はそんなに長い時間、過去の記憶を鮮明に保持し続けることはむずかしいのだ。

一方で、記憶が鮮明のままであり続けるということは、言葉で表現できない強烈な体験をされた被災者やその家族にとっては、いつまでも癒されない日々が続くことを意味している。

徐々に記憶の鮮明さが薄れていくことが、被災者やその家族を救済していくことにも直結していくのだから、安直に、記憶を留めることを最優先すべきではないのかもしれない。

とはいえ、3・11の記憶は消滅してはならない。そのために、記憶を保持し続けなければならないが、やはり何らかの工夫が必要であることも確かである。

来年3月で大震災発生から満6年となる

来年のことで、少し気が早い、年明けの三月十一日、大震災発生から満6年を迎える。

3・11は、つい先ごろのことと思っていたが、月日の経つのは早いものだ。

そしてこの満6年という区切り目、人々の記憶から忘れられるスピードが一挙に加速する時間の区切り目となる予感がするのは筆者だけだろうか。

また、そうしたことに伴い、復興への支援や協力も弱体化していくのは、まことにさびしいことではあるが、やはりあらがいがたい流れとなるかもしれない。

メランのように戻ってきて、北東北と北海道を襲ったのである。これまでにないルートを通った新たな大型台風であった。

岩手などでは死者や行方不明者が多数出た。北海道での台風被害もめつたにないことであり、道民はさぞや驚いたことであろう。

さらに自然災害は続き、今度は島根県で大地震が発生した。

一連の自然災害をみると、ことさらに日本列島の自然環境の厳しい一面を、連続で、時間を置かずに見せつけられているような気がしてならない。

こうして、直近の巨大な自然災害の記憶が鮮明となり、対するに、3・11の記憶が薄れていくというのはいたし方ないことかもしれない。

焦点の欠落した復興政策

震災記憶問題から転じて、ここであらためて、震災発生以来の復興政策を現時点から振り返ってみる。

まずは、発生直後にすべきことは誰の目にも明らかで、復旧対策であり、迷うことはなかったが、目指すべき復興像は結局のところはっきりしなかった。

というより、ビジョンの焦点が形成されることなく、ここまで来たという印象しかない。

3・11直後は、あちこちからビジョンの提言があり、

これで復興後の被災地は大きく変わるかもしれないという望みを抱かせた。

しかし、その後は、そうした議論も尻すぼみとなり、いまは見かけられることも皆無となった。

したがって、真の復興ビジョン論議は非常に悲観的に見た方が良さだろうという結論になる。

当然ながら、現実の復興も同様であり、インフラ等の復旧はある程度進んだが、震災発生前と大きく異なつた部分はほとんど見あたらないので、この先も、大きな変化はないという可能性の方が大きいと言わざるを得ない。

まさか、インフラ復旧対策のみで終了?

そうすると、ひとつの疑念が頭の中を駆けめぐってくるのである。

人々の記憶から薄れてくるのをいいことに、復旧対策のみに専念して、完成の都度、マスメディアにニュースをリリースしておけば、復興対策は進んでいるという印象を植え付けることができるので、そこで止めて置けばよいと。

最初からそう思つてやつて来た訳ではないと思いたいが、情勢はどうも最初から仕組まれていたようにも思えてくるのである。

巨大な防潮堤を作れば、復興対策は万全だと主張したいのだろうか。

福島は復旧さえままならない

それから、福島のことを忘れてはならない。

福島第一原発に関連するニュースは一挙に減少した。マスメディアの報道姿勢はどうなっているのかと大いに疑問を感じる。

放射能汚染対策は遅々と進まないが、近隣地区への帰還政策だけはかなりの強引に推進されている。

それで、福島は復興途上にあるのだとアピールしたいのだろうか、実態を正確に伝えて欲しいものだ。

福島第一原発一号機の建屋カバーを取り外したニュースがあったが、そこから突っ込みはないのか。

2020東京オリンピックでは、世界のマスメディアが福島を訪問するはずである。

腰砕け状態の国内のマスメディアに替わって、世界のマスメディアが、正確な情報収集に努力してもらい、日本国民に、情報伝達面で貢献して欲しいと切に願う。非常に情けなく、筋違いの願望であることは百も承知であるが、いまはそこに期待するしかない。

遅れてやってくる復旧対策しかない



福島第一原発一号機建屋カバー解体後



まさか復興対策の目玉は防潮堤のみ?

しかも、「不十分な復旧」である。真の復興対策など望むべくもない。

3・11直後のビジョン論議がかまびすしい時期に、まさか、ひよっとしたら、と頭をかすめた可能性が、いよいよ現実味を帯びてきたのだ。

2020東京オリンピックで大震災の記憶を再び鮮明に!

こうしたなかで、前述の、3・11の記憶を保持する工夫のひとつとして、また、真の復興をあきらめずに追求する方策につながるイベントとして、2020東京オリンピックを有効に活用

するのはけつして筋違いではないと考える。現時点で、これ以上有効な方策は思いつかないほどである。

前から言い続けているように、東京オリンピックには、海外の選手団だけではなく、観光客もたくさん押し寄せる。海外メディアも追随する。

これに最近の円高による観光客増加の波がシナジー効果を産めば、さまざまな角度から3・11とそこから復興が注目を浴びるのは確実である。

そうしたせつかくの可能性を、東北復興はオリンピックのようなお祭りとは違うとか、たくさんの方が亡くなっている地域なので、あまりよく事情を知らない

人間に来て欲しくないなどというアンチキャンペーンを張つて、東北自らが芽をつぶしてしまわないように願うばかりである。

ややもすれば、東北人気が悪い面を出してしまい、意固地になって、せつかくのチャンスをついに失ってしまうように、祈っている。

オリンピック効果には2面の効果あり

2020東京オリンピックが東北の被災地に与える影響は二つの側面があると考ええる。

ひとつは、オリンピック開催までに復興がまちがいに加速することである。海外からの観光客に被災地の復興と復旧を見せまいと

して、全体をシートで覆うことなどできない。否が応でも、復興・復旧させなければならぬのである。

もうひとつは、経済効果と文化PRである。東北復興を、オリンピック景気で補完するというのは、何かちよつとした違和感を禁じえない部分もあるが、筋を通して、経済支援は不要というのは、意固地すぎると思うのである。

もつと言えば、積極的にこの機会を活用して、経済面だけではなく、東北の文化を世界に広める機会にすると、あらためて東北復興の強力な支援者に仕立てていくとか、そうしたことを期待したいものだ。



松川溪谷



岩手山

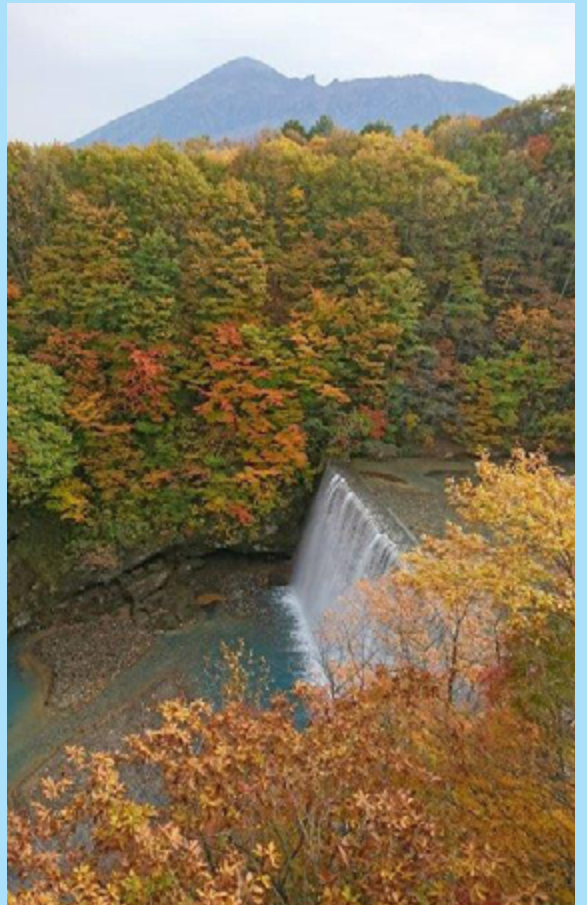


松川溪谷



岩手公園

**写真でお伝えする
東北の紅葉(岩手)**
写真撮影:尾崎匠



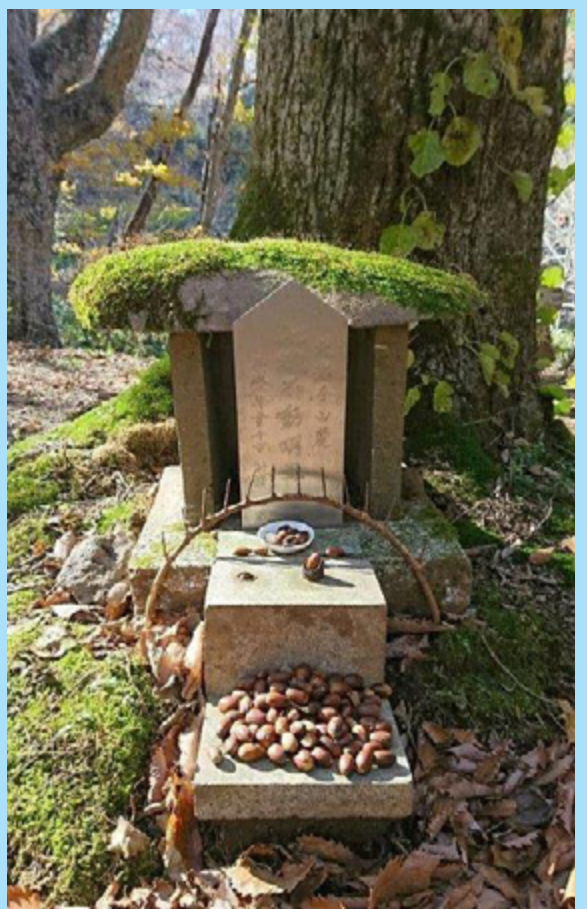
松川溪谷



七滝



岩手公園



七滝



東北地酒ラインアップ(渋谷)

次の三陸酒海鮮会は、渋谷が十一月十九日(土)午後四時から、渋谷ヒカリエ近くの焚火家で、日本橋は十二月一日(木)、午後七

参加者募る!!
うまい東北地酒と三陸海鮮の会
第24回 三陸酒海鮮会・渋谷
第21回 三陸酒海鮮会・日本橋

時から、水天宮前のささやで、それぞれ開催いたします。これからの季節は、暖かいなべ物に、さまざまな海鮮とおいしい東北の地酒が最高です。ぜひたくさんのみなさまにご参加いただきたいと思ひます。この会にはいくつかの自慢があります、特に東北の地酒です。地酒は基本的に純米酒系に絞っております。純米酒系が最も海鮮とマッチし、海鮮の味・風味を消さない一方で、純米酒も、吟醸酒系のように、あまり自己主張せず、飽きが来ず、日本酒本来の味が最もストレートに味わたる酒と考えております。また、東北の地酒ラインアップもすばいですのでぜひご参加を!



東北地酒ラインアップ(日本橋)



「鍋(渋谷)」



完成品

第27回 水産業再興のための料理レシピ紹介

【サバの黒酢照り焼き】

青森県沖で獲れたサバを使った黒酢照り焼き



郷土料理愛好家
松本由美子氏

一簡単レシピ

【材料】 <2人分> サバ 160g、片栗粉 大1、サラダ菜 少々、ごま油 大1、a 黒酢 大1/2、醤油 小2、はちみつ 大1/2、にんにくすりおろし 小1、いり松の実 大1、糸とうがらし(あれば適量)

【作り方】 ①サバは水気をしっかりふいて一口大に切り、ポリ袋に入れて片栗粉をまぶす。
 ②フライパンにごま油を熱してサバを2~3分焼き、aを加えて煮からめる。
 ③皿にサラダ菜を敷いて、サバをのせサラダ菜をのせる。松の実をちらす。(あれば糸とうがらしをあしらう)

「楽都」への道

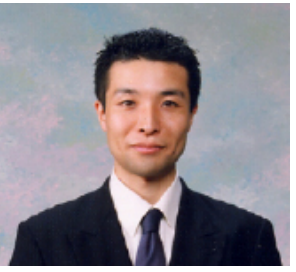
音楽イベントの多い街・仙台

私事であるが、今年から男声アカペラグループに所属している。活動を始めて今年で17年目になる、仙台でも老舗と言えるグループで、男声のみ、しかも無伴奏というグループは多くのバンド、グループが活動する仙台でも稀である。

11月5日は第15回仙台ゴスペル・フェスティバルが開催され、仙台市中心部の11のステージで104の演奏が繰り広げられた。お目当てのグループの演奏を聴きに来た人はもちろん、歩いていた足を止めて演奏に聞き入る人の姿も各所で見られた。

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北プロダクション」
http://blog.livedoor.jp/anagnashi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo

は仙台市内の音楽イベントである。6月の「とつておきの音楽祭」、7月の「太白区民合唱祭」、9月の「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、そして今回のこの「仙台ゴスペル・フェスティバル」である。

これら以外にも仙台市内の音楽イベントは数多い。5月に「仙台コレクシオン」(昨年までは9月の開催だった)、6月には「ジャズ・プロムナード in 仙台」、7月に「伊達ロックフェスティバル」、若林区合唱のつどい、8月の仙台七夕まつり時期に開催される「スターライト・エクスプロージョン」と「七夕ヴィレッジ」、9月に「秋保温泉MUSIC BAR」、10月に「仙台クラシックフェスティバル」、伊達な街四丁目アカペラストリート、「MWGA☆ROCKS」、12月に「ビッグバンドJAZZ・クリスマスコンサート」

ト、「学都×楽都コラボレーション」、「クリスマスズヴィレッジ」などが開催され、他に3年に1回仙台国際音楽コンクールが開催される。

それだけではない。「仙台・杜の響きコンサート」(http://www.norinohibiki.com/index.html)には、仙台市内で開催される音楽イベントの予定がまとめられているが、ここを見ると、毎月かなりの数の音楽イベントが仙台市内各地で開催されていることが分かる。

こうしたあまたある音楽イベントの中でも、9月に開催される「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」は、今や国内最大の市民音楽イベントと言われる。市民の発案で始まったこの音楽イベントは、26回目を迎える今年、国内外の760のバンドが集まり、70万人が集まる。市民が中心となって運営し、市民が無料で気軽に聴けて、街角そのものがステージというスタイルで始まったこのイベントは、全国各地の音楽イベントにも影響を与えた。仙台市内はもとより他の地域でも同様のスタイルを取る音楽イベントが数多く誕生した。宮城県内では「鳴子音楽祭」「湯の街ストリートジャズフェスティバル in SPA 鳴子」、東北では秋田の「ザ・パワーオブミュージックフロムアキタ」と「アキタミュージックフェスティバル」などが

もう一つの東北の「楽都」・郡山

このように音楽イベントがあまた催されることもあって、仙台は「楽都」と称することがある。ただ、「楽都」は仙台だけの専売特許ではない。東北ではもう一つ、福島県郡山市も「楽都」を称している。郡山の「楽都」への道は戦後すぐ始まったとのことで、かなりの歴史を持っているようである。敗戦直後の荒廃の中で郡山では、音楽が戦災からの復興を目指す市民の心の拠り所となり、当時難しかったオーケストラを招いたの演奏会を実現させ、その後「良い音楽を安く多くの人に」とのスローガンのもとで進められた勤労者音楽協議会の企画で著名団体の公演などが相次いで実現し、注目を集めたそうである。1964年には毎月第3金曜日をコーラスの日とし、街頭でコーラスを歌い、広めるという「十万人コーラス」運動が興り、翌年には「二十万人コーラス市内パレード」なども実施された。

現在、郡山でも仙台と同様に年間を通じて音楽イベントは多いが、郡山で特筆すべきは学校音楽のレベルの高さである。特に合唱においては、中学校では郡山市立郡山第五中学校女声合唱団、郡山市立郡山第五中学校混声合唱団、郡山市立

郡山第二中学校合唱部、郡山市立郡山第七中学校合唱部などが、高校では福島県立安積黎明高等学校合唱団や福島県立郡山高等学校合唱団などが、また小学校では郡山市立大島小学校などが、全日本合唱コンクールや「Nコン」ことNHK全

国学校音楽コンクールなどで上位入賞の常連校となっている。これは郡山市内の音楽活動のすそ野の広さや教育の熱心さなどを如実に示しているものと言える。ちなみに、福島県内では会津若松市も郡山に負けず劣らず、中学校や高校の合唱部がレベルが高い。中学校では会津若松市立第二中学校合唱部、会津若松市立第四中学校合唱部、会津若松市立一箕中学校合唱部、高校では福島県立会津高等学校合唱部がやはりコンクールの上位常連校である。会津若松市は特に「楽都」を名乗っていないが、充分それに値する存在であると言える。

世界的に「楽都」と言えばオーストリアの首都ウィーンのことである。ハプスブルク家の音楽好きに端を発する、少なくとも500年以上の伝統、モーツァルトやベートーヴェン、シューベルトといったウィーンを拠点として活動した著名作曲家の存在、全世界に衛星生中継されるニューイ

ヤーコンサート、現在少なくとも8つはあるオーケストラなど、まさに「楽都」と称するにふさわしい要素があまたある。これらに加えて特筆すべきは、音楽を楽しむ環境の充実ぶりである。ウィーンには一度足を運んだことがあるが、すぐいと思っただけ、ウィーン国立歌劇場管弦楽団とウィーンフィルハーモニー管弦楽団という、ウィーンを代表するオーケストラによるオペラが、ウィーンではほぼ毎日上演されているというのである。それだけではない。もちろんウィーンでもいい席は日本円にして2万円くらいはするが、それだけでなく、学生やお金がない人でも楽しめるように、立見席が用意されており、その値段は日本円で500円くらいなのである。500円でオペラ鑑賞などとは日本ではおおよそ考えられないことであるが、ウィーンではその気になれば毎日、500円でオペラを楽しむことができる。このように、市民が音楽を身近で気軽に楽しめることが、「楽都」の「楽都」たる所以であるように思っただけであるように思っただけである。日本と同様の環境は望むべくもないが、少なくとも仙台や郡山で開催されている皆さんの音楽イベントは、市民自らが演奏したり、その演奏を気軽に聴いたりできるということ、そこに住む人自身が音楽を楽しむ環境をつくるのに大いに

貢献しているということは言える。「楽都」にとつてそこが最も重要な要素であるように思う。

「楽都」ウィーンに学ぶこと
「楽都」と言え

「楽都」同士の連携を

ちなみに、Googleで「楽都」と入力して表示される地名は仙台、郡山の他に、松本、堂山、四国中央があった。これらの都市がどのような趣旨でどのような活動を行っているかについて情報を得る機会が日常ほとんどない。そう言えば、同じ東北であっても、仙台と郡山の間でも「楽都」連携はほとんどなされていないのではないだろうか。恐らく、仙台市民のかなりの割合の人は、自分たちの住んでいる仙台が「楽都」と称していることについてはあまり知らないだろうし、ましてや郡山が「楽都」としてどのような取り組みをしているかについてもほとんど知らないのではないだろうか。

しかし、「楽都」としてウィーンになることは難しくても、お互いにその取り組みについて情報交換をし、学び合うことで、「楽都」としての取り組みをより充実させ合うことはできるはずである。そもそもウィーンと違って、日本国内であれば「楽都」は一つの都市だけが名乗れるという多発的に複数の「楽都」

があつてまったく問題ないはずである。いや、むしろたくさんさんの「楽都」があれば、それだけ音楽を楽しむ環境が多くあるということになり、望ましい。「楽都」を自称する都市が集まって、年に1回くらい「楽都サミット」を開催してみようだろうか。

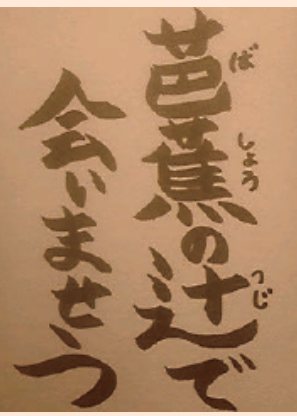
東北の中だけでもできることはありそうである。まずは先に述べた、仙台と郡山という「楽都」同士が連携する体制をつくる必要だが、それに加えて、東北の主だった都市間で音楽に関する取り組みについて情報交換する場があるとういことである。

なぜそのような思うかと言えば、最初に述べた「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」と同様のスタイルで始まった東北の音楽イベントの中には、何回か開催されたもののその後開催されなくなってしまうものもいくつかあるからである。これは実にもったいないことである。何か新しいことを始めることはもちろん大変だが、

新しく始めたことをその後も続けることは実はもっと大変なことである。始めたことをその後どのように続けるかについてのノウハウは、始めたことを続けているところから持っている。運営体制の構築や維持、引継ぎや予算確保、プロモーションといった実務上のことからコミュニケーションの維持といったメンタル面のことまで、長く続けているところには必ず工夫がある。それを共有することで、せっかくながら始めたものが一過性のもので終わるのではなく、息の長い取り組みとして続き、そうすればその取り組みは地域に根付く。「楽都」はそうしたことの積み重ねの先にある。郡山の「楽都」への取り組みが戦後の復興を支えたことを考えても、音楽の持つ力を東北が前に進むために活かすことは必要であると思う。そのためには東北のあちこちに「楽都」ができるのがよいのではないだろうか。



連載
むかしばなし



第四十二話
北岸を征す

地球上から高度数百キロの暗い真空中に浮かぶ、ニグ

「青龍号」が再び唸りを発し、巨大な身体の方々に光らせ発進に備えていた。

「仙臺の街の形は残っているだろうか、宮澤くん。」

「何だか無償に都会が恋しいですね・仙臺の丸善でも新しく欲しいです。」



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

皮製らしき服に身を包んでいた。ナイプトニエニが何かを大切そうに両手で持ち、歩いてくるのに、賢治は気づく。側にいた小野寺が、ウィルタの言葉を通訳してくれる。

「先祖からの、代々の伝言だそうです。あの石で、妹さんに無事会えた事を願うと。」

賢治は感電したように、驚きで動けなくなった。「いや・死者に会えるはずもなく。だが、ご先祖様はずっと伝えて下さっているのですね・感謝の念に堪えませんか。」

「ナイプトニエニが言っています・必ず会えます、死は終わりではないから・これでも伝言だそうです」

「・ええ。今もこうして私の時代には生まれていなかった人達にも会えていましてからね。」

ナイプトニエニが持っている、木の皮を巻いた箱を開けると、木屑の中に真っ黒な、しかし内部に青や緑の光が瞬いているような、不思議な石が収まっていた。「父祖は人生の終わりにこの石の合成を成功させた・人は皆、肉体なき後も旅をするが、これは誰一人持

った事のない、切符となろう、と。父祖自身はこれを持っていかず、貴殿の為にこの世に遺したという事です。」

「これを友人らと、分けて使う事はできませんか？」

「石自体を割る事は困難だと。旅立たれた後、石は鍊で切り分ける事ができるよくなる、と言っています」

賢治は震える手で、その箱を受け取り、頭を下げた。「ナイプトニエニさん。この石を通じ、時空間を越えて再びお会いしましょう」

一時間の後、喜善と賢治、そしてトヨハは青龍号の胸部内座席にいた。巨大な蝦蟇は母船を離れて惑星の大

「あれが与那国島・すぐ南に、古代海上の王国があった、私はそこで生まれた。十三歳までそこに暮らしたその記憶は常に鮮明にある」

九州上空に達すると、解説もそこに進んでいく。「王国が突然滅び、私と一族は命からがら北の大煙島・つまり九州島に渡った。そこではあらゆる海から集まってきた人々が、争いを繰り返していた。私は阿蘇の地で戦火に巻き込まれ、そこで最初の死を迎えた。」

「その後の記憶は甦った私が代々遺していった文書でしか辿れない。甦ると私の身体も心も、十三歳に戻ってしまったから。」

簡潔ながら、あまりにも数奇にして壮絶な人生の物語を感じる。「貴女は二十世紀もの長い間、数え切れない人生を生きて、死の記憶すらある・辛くてたまらない事は無いのか。」

「死の記憶は最初の死、一度きりよ。その後の人生は二十歳で死ぬ事もあるけれど、六十歳で死ぬ事もあるけれど、私に最後に残るのはいつか、最初の十三年の記憶だけ。」

青龍号は瞬間に四国上空を越え、大阪や京都のあった平野部に達する。上空からも、白骨のように細長い建造物の名残が多く認められるが、大概は深い緑に覆われて、かつての繁栄を偲ばせる姿ではない。

おそろく、東京も、そして仙臺も同様なのだろう。「昭和三年の俺たちは、どこに向かって、何を目指していたんだろう・帰れたとして、俺はこの先どう生きるべきなんだろう。」

前席の少女は、賢治の呟きを無視するように言う。「本当に、センダイという市のあった土地に、放射能値の低い安全な領域が存在するのよ・私がこの五感で確かめねばならない。」

喜善が問う。「仙臺や、東京は巡回したりしていないのですか。」

「世界の壊滅直後は、生き残りの捜索や救出の為に十年間は続けられたけれど、その後は何十年も放置されたままらしいね。苗を植える事もできないしね。」

青龍号はまっすぐ北東を目指し、北陸から日本海に出た。右手の海岸線の先に、鳥海山が見えてくる。やがて船は大きく東へ舵を切り、奥深い山々を越えて、遂に仙臺平野へ抜けた。「なんと・これが仙臺か。」

「死の記憶は最初の死、一度きりよ。その後の人生は二十歳で死ぬ事もあるけれど、六十歳で死ぬ事もあるけれど、私に最後に残るのはいつか、最初の十三年の記憶だけ。」

「放射線量は下がらない・危険な土地である事は変わらないわ。目的地は？」

賢治が答える。「私が友人と盛岡に作った出版社・光原社と同じ名の建物か、芭蕉の辻を少し南下した所にある・はずだ」

城下中心部は高い建造物に加え極めて広い道路が南北に伸びており、廃墟とはいえないまだ緑は覆い尽くせていない。喜善は呟く。「杜の都と呼ばれていたが、たまたま森になってしま

「芭蕉の辻はどこだろう？建物が高すぎて場所の見当がつかれないな。」

それは、二人の知る街並では、もはやなかった。「驚いた・高度を下げる度に放射線量が下がっていくわ。どういう事・・・？」

「やはりそうか。地上は人間が出歩いても平気な値？」

賢治が何かを見つけ叫ぶ。「待った！あそこ、道の入口を見て。倒れた看板に『国分町』とある・・・とする、この道を南だ。」

比較的狭い直線道路に入り、地上二メートル程の高さに浮いたまま青龍号は進んだ。喜善と賢治は固唾を飲んで街の様子を見守る。「停まって、トヨハさん。」

賢治が言った。右手に仙臺地元の銀行・そして十字路の傍らに、龍の姿をした石碑。そこに、「芭蕉の辻」の刻み文字があった。

「だがやはり、高い建物は都心にある・あれが仙臺城下だね。」

「危険な土地である事は変わらないわ。目的地は？」

賢治が答える。「私が友人と盛岡に作った出版社・光原社と同じ名の建物か、芭蕉の辻を少し南下した所にある・はずだ」

城下中心部は高い建造物に加え極めて広い道路が南北に伸びており、廃墟とはいえないまだ緑は覆い尽くせていない。喜善は呟く。「杜の都と呼ばれていたが、たまたま森になってしま

「芭蕉の辻はどこだろう？建物が高すぎて場所の見当がつかれないな。」

それは、二人の知る街並では、もはやなかった。「驚いた・高度を下げる度に放射線量が下がっていくわ。どういう事・・・？」

「やはりそうか。地上は人間が出歩いても平気な値？」

賢治が何かを見つけ叫ぶ。「待った！あそこ、道の入口を見て。倒れた看板に『国分町』とある・・・とする、この道を南だ。」

比較的狭い直線道路に入り、地上二メートル程の高さに浮いたまま青龍号は進んだ。喜善と賢治は固唾を飲んで街の様子を見守る。「停まって、トヨハさん。」

賢治が言った。右手に仙臺地元の銀行・そして十字路の傍らに、龍の姿をした石碑。そこに、「芭蕉の辻」の刻み文字があった。

「だがやはり、高い建物は都心にある・あれが仙臺城下だね。」

「危険な土地である事は変わらないわ。目的地は？」

賢治が答える。「私が友人と盛岡に作った出版社・光原社と同じ名の建物か、芭蕉の辻を少し南下した所にある・はずだ」

城下中心部は高い建造物に加え極めて広い道路が南北に伸びており、廃墟とはいえないまだ緑は覆い尽くせていない。喜善は呟く。「杜の都と呼ばれていたが、たまたま森になってしま

「芭蕉の辻はどこだろう？建物が高すぎて場所の見当がつかれないな。」

それは、二人の知る街並では、もはやなかった。「驚いた・高度を下げる度に放射線量が下がっていくわ。どういう事・・・？」

「うぬらは平家を下した精鋭軍隊である。坂東武者の意地を今こそ見せつけよ！」

オーオーという勇ましい叫びが方々で起こり、軍全体へ波及していく。和田義盛の長弓軍団の矢尻に、高尾の修験者たちが呪文とともに点火すると、暗闇に向け一斉に放たれていく。

何物かの怖ろしい叫びが闇の奥で起こり、次にその方向から地響きが伝わってきて、やがて兵らが悲鳴を上げ始めた。頼朝の顔からさっと血の気が引く・全身に火のついた獣が群れをなして長弓隊をなぎ倒していくのだ。あれは、猪？いや、青猪だ。無数の燃え上がるカモシカが、雪崩のように迫り来るのだった。

「広瀬の岸へ向かう。一気に押し渡るぞ！」

岸辺まで一挙に飛び出すと、兼任の姿も、その軍団の影もない。そして・河のせせらぎも、なかった。「この河は・蛇です！大蛇が横たわっております」

叫ぶ足利義兼の前に、干上がった川と、その跡の窪みに長々と横たわる、あまりに巨大な銀色の龍・その鱗の壁が立ちふさがっていた。

「次回予告」

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立冬」
遠野 1000 景より

二十四節季では、十一月初めは「立冬」である。

この言葉を耳にしただけで身震いがして、身体全体の汗腺がすべて閉じて、冬の到来に備えて身構えなければならぬ。

遠野の山間部でもすでに初雪が降った。まさに「立冬」にふさわしい。

今年は、秋の夜長や虫の声を聞きつつ、秋を堪能するいとまがなかったように感じる。

先月は季節はずれの夏が続いたかと思うと、いき



お通り



秋祭り

なり冬日に突入するというように、何だか秋を一挙に飛び越えた感じだ。

国内外のニュースもあわただしく、気候もあわたたしいと、あらゆる変化の渦に巻き込まれそうで、とても落ち着かない。

さて暗い話題から転じて、今月号は、遠野の秋終盤の風景写真を取り上げた。名残惜しい秋祭りの写真は

とても心に沁みる。来年まで会えないさびしさと、祭りの喧騒が、一緒になって頭のなかを駆けめぐる。来年こそは絶対に行かねばならないと心に誓う。

秋の草花もすでに散ったかもしれないが、鮮やかで目に沁みる。

「びーのたましひ」はいずれ「スモナビル」になるのだろうか。飲みたい。



ヤマボウシの実



キツリフネ



石塔と六角牛山



火喰いゴンゲン舞



びーのたましひ

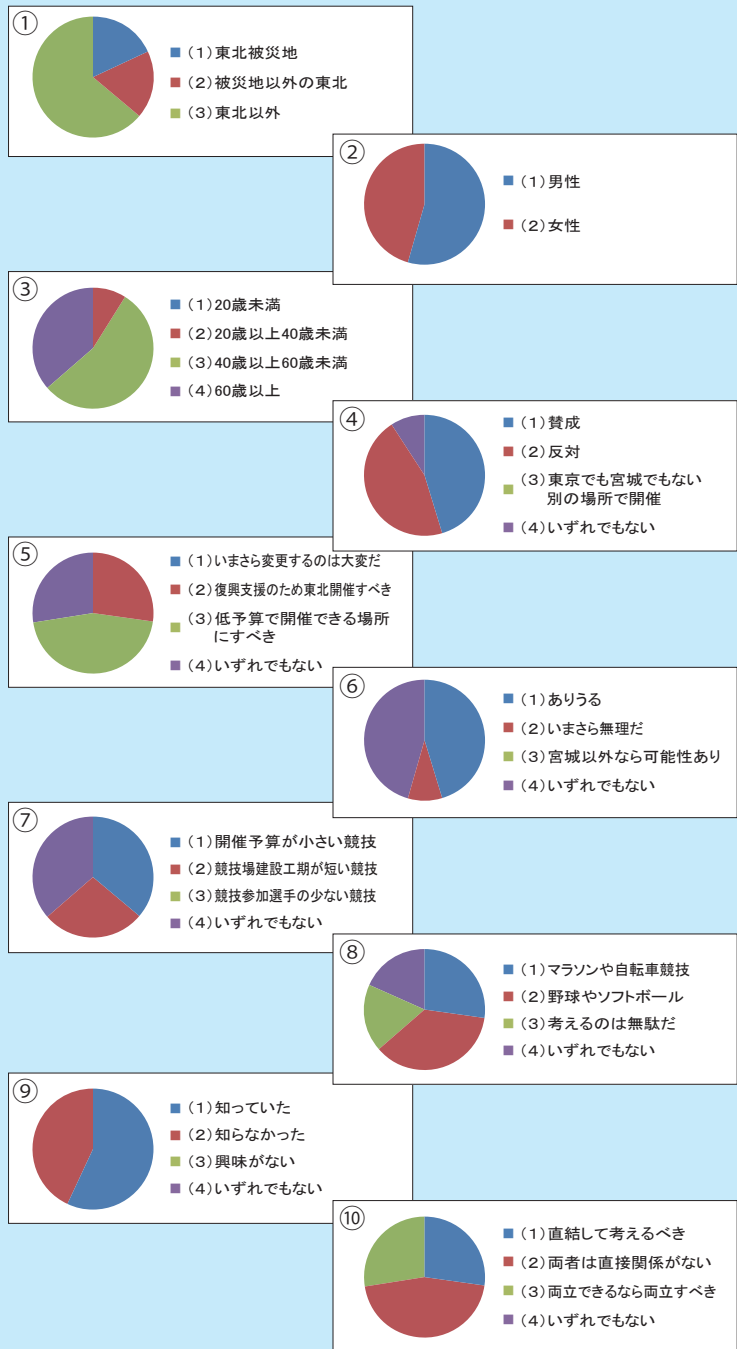


さんさ踊り奉納

第53号 ネットアンケート集計結果

【東京オリンピック競技の東北開催について】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	2
	(2) 被災地以外の東北	2
②	性別	
	(1) 男性	6
	(2) 女性	5
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	1
	(3) 40歳以上60歳未満	6
④	ボート競技の宮城開催について	
	(1) 賛成	5
	(2) 反対	5
	(3) 東京でも宮城でもない別の場所で開催	0
⑤	設問4のご回答の理由は何ですか?	
	(1) いまさら変更するのは大変だ	0
	(2) 復興支援のため東北開催すべき	3
	(3) 低予算で開催できる場所にすべき	5
⑥	ボート以外の競技の東北開催	
	(1) ありうる	5
	(2) いまさら無理だ	1
	(3) 宮城以外なら可能性あり	0
⑦	東北開催可能ならどんな競技?	
	(1) 開催予算が小さい競技	4
	(2) 競技場建設工期が短い競技	3
	(3) 競技参加選手の少ない競技	0
⑧	設問7に関して具体的な競技名は?	
	(1) マラソンや自転車競技	3
	(2) 野球やソフトボール	4
	(3) 考えるのは無駄だ	2
⑨	サッカー予選の宮城スタジアム開催について	
	(1) 知っていた	4
	(2) 知らなかった	7
	(3) 興味がない	0
⑩	東京オリンピックと東北復興の関係	
	(1) 直結して考えるべき	3
	(2) 両者は直接関係がない	5
	(3) 両立できるなら両立すべき	3
	(4) いずれでもない	0



意見は真つ二つに分裂

今回は「東京オリンピック競技の東北開催について」であった。この問題は新聞・TVをにぎわしているが、本筋の議論から外れている部分があるようにも感じられてあえて選んだ。回答者数は十一名。

④「ボート競技の宮城開催について」は「賛成」と「反対」が5票ずつで真つ二つに分かれた。

⑤「設問4のご回答の理由」は、「低予算で開催できる場所にすべき」が最も多く約45.5%。

⑥「ボート以外の競技の東北開催」も、「ありうる」と「いずれでもない」が5票ずつとなった。

⑦「東北開催可能ならどんな競技?」は、「開催予算が小さい競技」が4票、「競技場建設工期が短い競技」が3票で続く。

⑧「設問7に関して具体的な競技名は?」は、「野球やソフトボール」が4票で、「マラソンや自転車競技」が3票で続く。

⑨「サッカー予選の宮城スタジアム開催について」は「知らなかった」が7票というのが驚きだった。

⑩「東京オリンピックと東北復興の関係」は「両者は直接関係がない」が5票で、「直結して考えるべき」と「両立できるなら両立すべき」が3票で続く。

ほとんどの設問で意見が割れた印象が強かった。

編集後記

2020東京オリンピックのボート競技場問題が依然として騒がしい。IOCのバッハ会長がこの問題に割り込んで、国内問題が一挙に国際問題になったかと思えば、オリンピック組織委員会の森会長が、一転して、福島での野球・ソフトボール競技開催に賛成し、福島誘致をリードし始めるありさまである。

オリンピックは政治と無関係というのは、こうした状況を眺めるにとても信じられない。加えて、政治家の個人的な感情に振り回されているようにも感じる。そんなことよりも、東北の復興問題とダイレクトに絡んで意見交換して欲しいと切に願う。

あまりにも、利権だ、面子だと、主題から離れた場所での議論が進んでいるよう。まことに情けない。

国民も、あまりこうしたことを見せつけられていると、アメリカ大統領選のような大番狂わせが近々発生するかもしれない。

マスメディアも、こんな茶番劇に対して皮肉のひと言も言えず、国民の総意から離れていくと、アメリカのマスメディアのように、国民の真意をつかめない状況となるかもしれない。

そんなことを思う東京オリンピック競技の東北開催問題である。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タブloid新聞【東北復興】宛
- (メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと思ひます。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています